

名医が選んだ「日本最高の名医」73人リスト

専門	名前／所在地	所属・肩書	推薦理由
がん	白井一裕	東京 NTT東日本関東病院呼吸器内科部長	最新知識をもとにステージⅢ以上の進行肺がん患者の希望に寄り添う丁寧な治療を行なっている
	小田誠	神奈川県 新百合ヶ丘総合病院・呼吸器外科統括部長(呼吸器センター長)	痛みの少ない低侵襲手術を目指し、高齢者でも1泊2日の短期入院手術を実現している
	鹿毛秀宣	東京 東京大学医学部附属病院呼吸器内科教授	肺がんの抗がん剤のスペシャリスト。エビデンスをもとに各科と協力して患者に適した治療を実践
	鈴木健司	東京 順天堂医院呼吸器外科教授	肺がん手術のスペシャリスト。肺がんをメスで切り取る高い技術は随一とされる
	中村彰太	愛知 名古屋大学医学部附属病院呼吸器外科講師	呼吸器外科チームが一丸となり治療にあたる。患者にとって最適な医療の提供を目指す
大腸がん	秋吉高志	東京 がん研有明病院大腸外科部長	直腸がんの腹腔鏡下手術のエキスパート。手術を振り返り、技術を磨き続ける
	上原圭	東京 日本医科大学消化器外科講師	根治の難しい進行がんや再発がんの手術を専門とする。「諦めない治療」がモットー
	絹笠祐介	東京 東京科学大学病院病院長補佐大腸・肛門外科診療科長	直腸がんロボット手術のスペシャリスト。術後の排尿障害発生率3%。肛門温存率は9割
	野中隆	長崎 長崎大学病院腫瘍外科准教授	発生率の高い合併症を抑えた大腸がん手術のエキスパート。ロボット手術の技術が高い
胃がん	吉野孝之	千葉 国立がん研究センター東病院副院長・消化管内科医長	22年に世界最大のがんの学会で、治療を最も進化させた世界トップ4の1人に選ばれた
	宇山一朗	愛知 藤田医科大学先端ロボット・内視鏡手術学講座教授	世界初の腹腔鏡の胃全摘術に成功させ、上部消化器ロボット手術の第一人者
食道がん	大森健	大阪 大阪けいさつ病院消化器外科主任部長	ロボット手術の達人。様々な技術を駆使し、術後の生活の質を保つための工夫を徹底する名医
	瀬戸泰之	東京 国立がん研究センター中央病院病院長	手術支援ロボットのダヴィンチによる世界初の食道がん手術を行なった食道外科の第一人者

がん

「生きるか死ぬか」を担う

本誌は各分野の名医に取材し、「自分や家族を診てもらいたい医師」を聞いた。医師自らが選ぶ「本当に頼れる名医」は誰なのか。診療科ごとに総勢73人を一覧表にした。まずは日進月歩の「がん治療」。自身も放射線治療の権威である東大病院の中川恵一医師に聞いた。

「食道、胃、大腸など消化器がん全般を担当する東大大学院准教授・辻陽介医師を挙げたい。彼の内視鏡による腫瘍切除は最高レベルの技術で、患者さんの痛みも身体への負担も常に最小限。能力、人柄ともに優れ、まだ40代という消化器内科の若きプリンスです。もちろん私の内視鏡検査も担当してもらっています」

医療ガバナンス研究所理事長の上昌広医師は「サイレントキラー」と

呼ばれるすい臓がんのゴッドハンドを挙げた。「数千件を超える圧倒的な執刀数で知られるのが順天堂大学医学部附属順天堂医院・齋浦明夫医師。難しい手術が多く、腕の差が出てしまう領域で執刀数が多いことは、その医師の治療実績に対する信頼の証です」

肝胆膵外科のトップランナーである齋浦医師はこう話す。

「この20年、肝胆膵領域では腹腔鏡やロボットなどの技術的な進化に加えて抗がん剤も進歩し、手術の守備範囲が広がりました。その間、第一線で治療に取り組み、手術を多く任せていただけたことで、すい臓の医師として評価いただけたのだと思います」

そんな齋浦医師は「大腸がん」の名医を推挙する。

【総力調査】



実名リスト

医療の進歩によって、様々な疾患が「治る病気」になりつつある。そこで重要になるのが、医師選びだ。知識と経験を併せ持ち、寄り添ってくれる医師は誰なのか。それを最もよく知るのは、病床の現場に立つ医師にはかならない。「名医が推薦する名医」を一挙公開。

「執刀数」「ロボット手術」から患者に寄り添う「人柄」までこのドクターを頼れ！

「名医が選ぶ名医」全国最高の73人

がん 心筋梗塞 脳梗塞
脊柱管狭窄症 認知症



齋浦明夫医師



上原圭医師



南淵明宏医師

専門	名前／所在地	所属・肩書	推薦理由
がん	一般・消化器外科	能城浩和 佐賀大学医学部一般・消化器外科科学講座教授	国産の手術支援ロボットによる「噴門側胃切除」を国内で初めて成功させている
	全般	竹中亮介 千葉 国際医療福祉大学成田病院放射線科教授	専門はがんの放射線治療。エビデンスに基づき、患者にきめ細やかな治療を行なっている
		中川恵一 東京 東京大学医学部附属病院放射線科特任教授	日本で最も有名な放射線科医の一人で、がん診療のスペシャリスト。緩和ケアにも精通
心臓		阿部亘 福島 わかまつインターベンションクリニック院長	心臓カテーテル検査・治療の高い技術で地域医療に貢献し続ける
		笠原真悟 岡山 岡山大学病院心臓血管外科長・教授	小児心臓血管外科分野、複雑心奇形、新生児の手術ではNo.1、国内外から患者が集まる
		菊池文孝 青森 はちのへハートセンタークリニック院長	狭心症、心筋梗塞、不整脈に対するカテーテル治療など職人技で地域医療に貢献し続ける
		桑原大志 東京 東京ハートリズムクリニック院長	心房細動に対する「カテーテルアブレーション手術（焼灼術）」の超スペシャリスト
		高梨秀一郎 神奈川 川崎幸病院副院長（川崎心臓病センター長・心臓外科主任部長）	冠動脈バイパス術など若い頃から心臓手術の症例数が圧倒的に多く、実績と経験が豊富
		田端実 東京 順天堂医院心臓血管外科教授	心臓弁膜症に対して開胸の外科手術だけでなくカテーテル治療も行なうハイブリッド外科医
		中村淳 神奈川 川崎幸病院川崎心臓病センター副センター長（循環器内科統括部長）	CTO（慢性完全閉塞）の患者にカテーテルを通して拡張させる技術は国内で第一人
		南淵明宏 神奈川 昭和大学横浜市北部病院循環器センター心臓血管外科教授	心拍動下冠動脈バイパス手術のパイオニア。日本屈指の心臓外科医として知られる
		根来伸治 大阪 今里ハートクリニック院長	国内外においてカテーテル治療の総数が2万例を超えるスペシャリスト
		幡芳樹 東京 みなみ野循環器病院院長（理事長）	多摩地区を代表し、地域の心臓病や循環器疾患の診療を中心に地域住民に信頼が厚い
		福嶋五月 大阪 国立循環器病研究センター心臓外科部長	移植や再生医療の研究に尽力する一方で、ロボット心臓手術まで手掛けるスペシャリスト
		山岸俊介 東京 イムス東京葛飾総合病院心臓血管外科医長	専門は心臓大血管疾患。TBS系ドラマ『ブラックペアン』シーズン1、2の医学監修を務めた

「スタンダードな手術をきれいにやってくれる人で、自分より若い先生がいい。がん研有明病院・秋吉高志医師は手術が速く正確で、結果に向き合っていないところを改良していく姿勢も素晴らしい。」

「心臓と並び、熟練の技術が求められる「脳」の

「日本一の職人だ」

本誌34ページの巻頭企画にも登場したベストセラー『80歳の壁』の著者・和田秀樹医師は、昭和大学横浜市北部病院・南淵明宏医師（循環器センター心臓血管外科教授）を推す。

「狭心症や心筋梗塞の治療で行なわれる心臓バイパス手術で、今では一般的になった『心拍動下冠動脈バイパス手術』の日本におけるパイオニアが南淵先生です。何回か対談をしたことがあります。年間200例の手術を行ない、常に慢心せず自身を律する態度に感銘を受けました」

専門	名前／所在地	所属・肩書	推薦理由
がん	消化器がん	斎藤豊 東京 国立がん研究センター中央病院内視鏡センター長・内視鏡科長	内視鏡治療の名手。さらなる低侵襲治療を目指し、新たな診断や治療の開発にも取り組む
	消化器がん	砂川優 神奈川 聖マリアンナ医科大学病院腫瘍内科部長	薬物療法、がんゲノム医療のエキスパート。患者のQOLを重視した治療を行なっている
		辻陽介 東京 東京大学大学院医学系研究科消化器内科学次世代内視鏡開発講座特任准教授	高い内視鏡の技術を活かし、病気の早期発見、的確な診断、低侵襲治療を行なっている
	すい臓がん	井上陽介 東京 がん研有明病院肝胆膵外科副部長	難易度の高い手術に粘り強く臨む。ロボット支援下の手術の開発にも力を注ぐ
		齋浦明夫 東京 順天堂医院肝胆膵外科教授	圧倒的な症例数と繊細な技術は国内トップレベル。最高難度の手術を20年以上行なう
	肝臓がん	椎名秀一朗 東京 順天堂医院消化器内科特任教授	ラジオ波治療の第一人者。根治不能とされた患者を数多く救う。後進の指導にも尽力する
		本田五郎 東京 東京女子医科大学病院肝胆膵外科教授	肝胆膵腹腔鏡手術の名手として世界的に知られる。国内外で多くの講演や手術指導を行なう
	前立腺がん	永田政義 東京 順天堂医院泌尿器科准教授	豊富な臨床経験を活かし、患者ごとに合わせた総合的なマネージメントを提供する
		吉岡邦彦 東京 板橋中央総合病院特任副院長・ロボット手術センター長	2006年、泌尿器科で国内初となるダヴィンチ手術を導入したロボット手術のパイオニア
	婦人科がん	金尾祐之 東京 がん研有明病院婦人科部長	難しい症例だとしても、「命を救う」という強い想いで、諦めず患者のために尽くす
	血液がん	神田善伸 栃木 自治医科大学内科学講座血液学部門教授	血液の病気に関する臨床経験が豊富。研究や、若手医師の育成にも力を注ぐ
	乳がん	上野貴之 東京 がん研有明病院乳腺センター長・乳腺外科部長	豊富な臨床経験と知識をもつ。術後のQOLを最大限考慮し、アフターケアも丁寧に行なう

日々、難手術をこなす上原医師が語る。「進行や再発した大腸がんの手術は難度が高く、時間がかかって大がかりです。リスクが高く、良くなるかどうか手術してみないとわからない。それでも覚悟を決めた患者さんに応えるべく、泥くさい手術」をやっています」

「ダ・ヴィンチ」導入に奔走した渡邊医師は、ロボット支援手術に取り組み心臓外科の名医として国立循環器病研究センター・福嶋五月医師や鳥取大学医学部教授・吉川泰司医師を挙げる。さらに、みなみ野循環器病院理事

「地域密着」に敬意

「ダ・ヴィンチ」導入に奔走した渡邊医師は、ロボット支援手術に取り組み心臓外科の名医として国立循環器病研究センター・福嶋五月医師や鳥取大学医学部教授・吉川泰司医師を挙げる。さらに、みなみ野循環器病院理事

「東京・八王子で多摩地区を代表する循環器病院として、地域住民に信頼されています。お人柄、実力ともに尊敬する先生です」

「スタンダードな手術をきれいにやってくれる人で、自分より若い先生がいい。がん研有明病院・秋吉高志医師は手術が速く正確で、結果に向き合っていないところを改良していく姿勢も素晴らしい。」

「生きているか死ぬか」のレベル。ある意味、そこまでの状態にはなりたくないが、いざという時に頼りたい名医です」